

(3) 2018年(平成30年)6月18日(月曜日)

土砂運搬

AI・ロボで自動化

佐藤工務店、東北大、早大が開発着手 NEDO補助事業に採択

佐藤工務店(宮城県加美町、佐藤敦社長)と東北大学土木系科学技術共同研究センター、早稲田大学スマート社会技術融合研究機構の3者は、土木工事に人工知能(AI)とロボットを取

り入れ、土砂運搬作業を自動化するための研究・開発に乗りだす。建設機械や車両にAIとロボット技術を導入し、土砂運搬を自動化して省人化につなげる。2年をめぐり、省人化の技術開発

AI・ロボット技術の早期実用化を目指す新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の補助事業に採択された。佐藤工務店の研究テーマは「ロボット技術とAIを活用した地方中小建設現場の土砂運搬の自動化に関する研究開発」。人材不足が深刻化している地方の中小建設業を

比較的小規模な土木現場でAI、ロボット技術を採用した建機や車両を稼働。タンクトラックへの土砂積み込み、運搬、積み込んだ後の地盤整正などを自動で行う技術を開発する。このほかNEDOは、土木分野(土砂運搬)以外に、交通や発電プラント、物流などの領域にAI技術導入を加速するための研究開発マ・委託先は次の通り。

【AI技術の社会実装に実証】
 ▼「AI活用によるプラント保全におけるガス漏えいの発見と特定」の迅速化、ならびに検出可能ガスの対象拡大「コニカミノルタ、神戸大学」
 ▼サイバーフィジカルバリューチェーンの構築に関する研究開発「産業技術総合研究所(産総研)、ABEJA」
 ▼AI技術の風車への社

【AI技術の適用領域を広げる研究開発】
 ▼AI技術導入の加速とスパイラルアップ技術に関する研究開発「産総研、ABEJA」
 ▼AI技術の適用領域を広げる研究開発「日立製作所、東京大学、産総研」
 ▼AI技術を用いた便利・快適で効率的なオンデマンド乗合型交通の実現「未来シェア、産総研、NTTドコモ」



東亜グラウト工業が千葉県浦安市に建設していた「浦安グセンター」や当社商品の展示



宏史理事長による講演後、野

あいさつした山口乃理夫社長は「敷地内で今後予定している第2期工事が完成する」として、初めてこのセンターを有効に活用してもらえただろう。そのころにはトレーニング

あいさつ

